

## 学会発表

### 新型コロナウイルスワクチン接種が健康診断結果に及ぼす期間の検討

発表者 廣田 こずえ  
共同研修者 榛葉 陽子 高橋 彰子 望月 希  
中島 信明 中上 和彦 古賀 震

#### 【目的】

2021年7月頃より白血球増多や白血球分画異常を伴わないCRP上昇が認められる受診者が散見されるようになり、新型コロナウイルスワクチン(以下コロナワクチン)接種による影響が疑われた。そのため、コロナワクチン接種が健診結果に影響を及ぼす期間を調べ、その期間の健診受診を控えていただくことを目的に調査を開始した。

#### 【対象・方法】

2021年8月～12月の健診受診者にコロナワクチン接種の有無、接種日、接種部位(左右)を聞き取り、そのうちCRP検査を受けた5,088人、胸部CT検査を受けた272人、乳房超音波検査を受けた947人についてコロナワクチン接種の影響を調べた。CRPは0.3mg/dl以上、胸部CT検査と乳房超音波検査では短径1cm以上の腋窩リンパ節腫大、1cm未満でも左右差がある場合や周囲脂肪織濃度上昇、炎症性腫大を所見ありとした。

#### 【結果】

CRPでは、2回目のコロナワクチン接種後6日目まで0.3mg/dl以上の割合が高くみられた。胸部CT検査では、接種後1ヵ月半位まで、乳房超音波検査では接種後1ヵ月位までは腋窩リンパ節腫大を示す症例があることが判明した。ただ、構造上やサイズの病的と判断できない程度で診断に支障をきたすことはなかった。ただし、乳房超音波検査では、接種後3週間位までT0乳がんとの鑑別が必要と思われる腋窩リンパ節腫大がみられ経過観察とした症例があった。

#### 【結論】

以上の結果により当センターでは、一般的な健康診断はワクチン接種後1週間以上経過してから受けて頂くことを周知している。また、問診票でも1週間以内のワクチン接種がないことを確認し、接種があった場合は接種日や接種部位、ワクチン名を聞き取りしている。乳房超音波検査では、腋窩リンパ節腫大が見られた場合には直近のワクチン接種を確認している。

第63回人間ドック学会学術大会(2022年9月2日、千葉市)にて発表した。